

## 「遠慮」というスキル

「AさんがBさんに話しかけてきた。それと同時に、BさんのもとにCさんがやってきて『一緒にトイレに行こう』と誘ってきた。結局、BさんはCさんと一緒にトイレに行ってしまう、Aさんは一人ぼっちになってしまった。この状況をみんなはどう思う？」

ある学級の朝の会で、担任が生徒たちに語りかけました。中学生ならありがちな状況に対して、生徒たちがどのような反応するのか興味津々で私は見ていました。

グループでの話し合いでは、この三人が男子なのか女子なのかによっても違うとか、Bさんの状況にもよるとかという意見が出ていました。そんな中で、「Bさんがいちばんつらい立場だ」という、状況を冷静に分析した意見がありました。担任は、十分起こりうる場面を生徒たちに考えさせることにより、いろんな人の立場に立って考えることが大切だと理解させたかったようです。中学生なら「Bさんはひどい。Aさんが一人ぼっちになってしまったかわいそう」という同情的意見が強いのかなと思っていましたが、私の知る限りではその意見はありませんでした。冷静にBさんの立場に立って考えられたことが、大きな収穫だったと私は思いました。

同様の状況が、われわれ大人の中にあっただとしたら、どうでしょうか。大人の中では、「遠慮」という意識が必ず生まれると私は思います。「相手を困らせてはいけない」「二人の関係をじゃましてはいけない」という思いが大人には湧いてきます。したがって、この場合は、AさんとCさんのどちらかが身を引く形になって、何ごともなく済むのではないのでしょうか。

「私は大丈夫。Cさんとトイレに行ってきて。」（Aさん）

「ごめん！話のじゃまをして。話が終わってからで（私は）いいよ。」（Cさん）

こうならないのが中学生です。BさんCさんが取った行動でAさんが寂しい思いをし、人間関係にギスギスした雰囲気が残ることでしょう。現実を笑って済ませられるような凶太さがあればよいのですが、やはり、そこは「半分大人で、半分子ども」。これから社会で人間関係をうまく築くスキルを身に付けなければなりません。それが「遠慮」というスキルです。

もう一つ、身に付けなければならぬことがあります！トイレに一人で行く判断力です。大人は誘い合ってトイレにはいきません。トイレは自分の意思で一人で行くものですかね。